

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300350		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホーム すずらんらいらく(すずらん)		
所在地	厚岸郡厚岸町門静1丁目69番地		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人社団という事でドクター、ナースの往診を受ける事ができ、安心した毎日を過ごす事が出来ると利用者様、ご家族から信頼を受けております。また、入居者様の自立支援として法人内のリハビリ施設や別ユニットのリハルームを利用し、パワーリハビリやセラバンド等の運動を行なうことで身体機能の維持・向上に努めております。また、通所利用者様との交流や共同作業、避難訓練や夏祭り等の行事へ地域の方々に参加して頂く事で社会とのつながり、社会参加の場として頂いております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300350-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<身体機能の維持・向上への取り組み>
同一系列が運営するグループホームのユニット増設に伴い、リハビリ室を設け、一人ひとりの身体機能の状況に応じて専門スタッフの指導の下、パワーリハビリを利用し、身体機能の維持・向上に取り組んでいる。また、毎日、法人の院長による往診や看護師との連携で体調や健康管理が図られており、適切な医療が提供されて安心して日常生活を過ごせるように支援している。

<地域との連携>
地域に向けて事業所の取り組みを理解して貰えるよう、行事案内のチラシの配布や事業所主催の「夏祭り」の開催、避難訓練に地域住民が参加するなど地域との交流・連携に努めている。また、法人主催の住民向け講演会開催や介護相談会実施で、事業所の持つ機能を地域に還元している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで暮らしてきた地域とのつながりを継続させ、一人一人が役割を持ち生き活きとした生活を送れるような目標をたて、皆が周知出来る所に掲示しケアに努めている。	事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時や職員会議を通じて話し合い、理念を共有し、その実践につなげている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練、夏祭り等行事の際は必ず地域全体にチラシを配り呼びかける事で足を運びやすい環境作りを心がけている。	事業所主催の「夏祭り」や避難訓練には地域住民の参加協力をいただいている。また、普段の生活の中でも散歩や外気浴等で近隣住民との交流など、日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にある行事や運営推進会議等に参加して頂き実際に関わって頂いたり、質問して頂く事でお伝えしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重な意見、学習内容、情報等反映できるように会議の内容は職員、家族に必ず報告しサービス向上に努めている。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所の取り組みや現状報告、火災避難訓練参加の呼びかけ等具体的内容を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括定期連絡会議等に積極的に出ることで町担当者と相談しやすい関係があり、運営推進会議、行事案内を行い参加して頂いている。定期訪問の介護相談員と改善すべき点を積極的に話せる関係ができています。	町担当者や包括支援センター職員の協力体制が整い、定期的な訪問や日常業務の相談等情報交換を行い、連携を深めている。また、毎月、町の介護相談員が来訪し、取り組みを積極的に伝えながらケアの質の向上に向けて取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会などに積極的に参加し、また参加した職員による学習発表会を開催する事で全職員に周知を促している。安全面でベッド柵などどうしても必要な際は書面にて事前に家族より了承を得ている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、内部・外部の研修参加で管理者及び職員の共有が行われ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム協会、また法人内でも虐待に対する学習会を行い、各職員の意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネより専門知識として学ぶ機会を設け、制度について理解していき、支援ができるように話し合っているがまだまだ全職員に浸透出来ていないのが現実なので今後も定期的に学習の場を設けていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の説明は、時間をかけ丁寧に説明し理解の確認をしながら行っている。それ以外でもいつでも気軽に相談出来る関係づくりを行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度町からの生活相談員が来所され、その際に利用者の声を聞いて頂き、何かあった時はその場で伝えて頂き会議で話し合い反映させている。	家族の来訪時には意見や要望等聞く機会を設け、相談しやすい雰囲気づくりを心掛け、管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の相談窓口を掲示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議を職員主体で行ない、意見の出しやすい雰囲気の中、意見や提案を確認し即日会議録で必ず周知出来るように取り組んでいる。	毎月実施する職員会議や日常業務で意見や要望、提案を聞く機会を設けている。また、議事録をまとめ職員間で共有できるように取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の職員会議、法人内学習会で職員の資格取得の奨励、援助、必要に応じ研修会の参加を勧めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の定期的な報告会、伝達会、法人内技師による介助学習会を行い、自己研摩に努めている。また、研修会の報告を職員会議で行ない伝達している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管内の協議会に参加し、情報の共有、必要に応じて実践研修を行い、意欲向上に努めている。改善すべき項目については職員会議で話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時点で、必要に応じ訪問、生活状況の情報収集に努め、環境の変化による不安の軽減に努めている。また、家族の情報を基に本人にとって心地よく住み慣れた環境を提供出来るよう努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の際に家族、本人より困っている事、悩んでいる事を十分に聞き、問題解決にむけ共に話し合うよう努め、必要であれば入居までに何度も場を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている事を十分に聞き入れ、事業所としての出来る限りの支援を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊かな利用者の知識を尊重し、それぞれ得意な事を教えて頂き、感謝の気持ちを伝えながら、共に楽しんで生活を送っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思い、過去の生活歴を職員が理解し、本人の現状を把握し、本人の安心が得られるよう相談している。また、問題解決についても連絡を取り合い行なっているとともにご本人の誕生会等行事ごとに参加を促し楽しみを共有して頂いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の施設を有効利用し、本人の要望に出来る限り添ったり、知人が来訪しやすいように配慮している。	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を忘れる事がない様に思い出話をしたり、自宅への訪問や馴染みの店を利用できるように支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の主張によりトラブルになりそうな時は、職員が仲介に入り、関係性が円滑にまわるよう職員間で情報の共有に努め、双方の要望に添うよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退去された方には、定期的なお見舞いや訪問を行っている。サービス終了後もイベントの参加呼びかけを意識的に行っており、関係性の継続を心掛けている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活スタイルを尊重し、要望に添った対応を行っている。また、言葉や態度で訴えられない方に対しては表情や仕草等からも気持ちくみ取り、出来る限り本人らしい生活を送れるよう援助している。	アセスメントに基づいて、家族や本人の意向・希望の把握に努めている。また、本人本位の支援に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び、家族や他サービス提供者より生活歴等の情報収集に努め、職員間で共有し、本人が生活しやすいように支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の流れは出来ており、本人の様子、表情から状態を把握し各々に何か一つでも役割を持って生活して頂けている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員の指導により、ケア担当がアセスメントを行い、カンファレンスで職員の意見を基に具体的な計画を立てている。また、家族の意見、思いも反映できるように来訪時や定期的な電話等で情報収集を行っている。	介護支援専門員の指導の下、担当職員を中心にアセスメントを行い、モニタリングを通じて職員の意見を反映している。また、本人、家族からの意見や思いを大切に、医師・看護師の意見も反映した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って個別記録に記入している。心身に変化が見られる時も、個別記入し適切な申し送りを心掛けている。介護計画も都度見直している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、送迎、他事業所の行事参加など、個々の要望に添っている。認知症通所も事業の一環として行っており、多機能性を生かした支援が行なわれている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報館、海事記念館など、地域の公共の施設を利用したり、法人内事業所の行事や活動に参加し楽しみを持てるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療連携があり毎日往診を受けている。状態の変化についても細かく報告し、適切な指示を頂いている。	受診は、本人及び家族等の希望するかかりつけ医となっている。また、母体法人の院長の往診や看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護職員と気軽に相談できる関係が出来ており、細かな医療相談を日々行うことで、適切な医療を受けられるよう支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活情報の提供を行う。又、入院中は家族から状況を逐一聞く事で情報の共有を行っている。入院環境の変化で認知症状が進行しないよう、状態に応じ入院先の、医療従事者と相談出来るよう心掛けている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況を常に報告し、不安のないよう働きかけている。また、定期的にご家族に対して、主治医とのムンテラの機会を提供している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々のリスクについて定期的に確認している。状態に応じ対策を職員間で話し合っている。急変の対応を経験していない職員もあり、緊急時のマニュアル用意し周知徹底している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者があり、年2回、消防立会いの下避難訓練を利用者と共に行ない、利用者の安全に暮らすための意識を持っている。	消防立会いの下、年2回夜間を想定した実技を伴う避難訓練を実施している。また、スプリンクラーの設置や地域住民の参加協力も得られている。	今後は、津波や地震等の自然災害についても避難できる体制づくりや地域との連携についても検討しているのでその実践に期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳、羞恥心に配慮しながら、日々のケアを行っている。	記録などの個人情報の扱いは、十分に注意しており、一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望に合わせて行動し本人の出来る力を見守っている。服や使いたい物等、選択肢を最大限に用意しご本人の意思を尊重出来る環境づくりを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならず利用者本位を常に念頭におき職員間の連携を図っている。訴えの難しい方には小さな動きでも見逃さないよう観察している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に継続してかかれるよう出張サービスをお願いしている。また、ご本人の希望がある際は出向く事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み食でも、見た目、色合い、形を工夫し食欲をそそるよう心掛けている。材料切り盛り付けなど一緒に行なっている。	利用者の嗜好を把握し、一人ひとりの力を活かしながら、調理や食事の準備、後片付け等楽しんで行えるよう取り組んでいる。また、その日の体調に合わせた食事を提供している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体重や体質に合わせており、嚥下困難、咀嚼に問題のある方については料理で工夫したり法人内OT、PTの助言を頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに努めているが、うがいの出来ない方には水分を多く飲用し対応している。ケア用具は個別に用意し汚れに応じ使い分けている。義歯の洗浄、管理を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄パターンは職員が把握しており、個々に合わせた時間誘導や、食事内容も合わせ、スムーズな排泄を行えるよう対応している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。また、トイレ誘導はさりげない声掛けや羞恥心への配慮を心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と、牛乳等の提供と多めの水分飲用に努め、自然排便できるように努めている。献立に繊維質の食材を取り入れているが、どうしても排便のない日が続いた際は往診の看護師から下剤等の指示をもらっている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限り本人の希望時に合わせて、入浴して頂けるよう支援している。体調不良等で入浴出来ない場合は、清潔保持のため清拭を行っている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援し、本人が楽しく安心して入浴できるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動、身体状況、心理面など問題がなかったか原因を職員で確認しながら、休息に向け対応している。不眠時は、温かい飲み物を提供し安眠の促しを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示に従い、薬の変更時は周知できるように、業務日誌に記載し連携を図っている。処方箋をファイルし種類、副作用を確認しやすいようにしている。服薬については確実に飲み込むまで見守っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	茶碗洗いや洗濯物たたみ等、個々に声掛けし一人一人の役割と意識をして頂いている。得意な事は教えていただき感謝の言葉を伝えるよう心掛けている。出来る事は率先し行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の会話の中で、行きたい場所や懐かしい場所を聞き、自宅訪問、外食、ドライブなど希望に添うよう配慮している。その際出来る限りご家族もお誘い掛けている。	普段の関わりの中で本人の懐かしい場所や行きたい場所等、希望に添って外食や帰宅、近郊へのドライブを実施して出来る限り出かけられるように支援している。また、散歩や買い物、外気浴等も日常的に行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる人は買い物、外食など自分の財布から支払っており、楽しみの一つとなっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙、年賀状など、希望に添った対応を行っている。毎月お便りを発行し、日常の写真を送ることで家族に安心感を持って頂いている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて装飾を変えたり、季節の花を活け落ち着く雰囲気を作っているが、異食行為、混乱などしないように工夫している。	共用空間は広く、ソファや椅子を配置し、利用者同士や職員と談話するなど思い思いに過ごせるスペースが確保され、壁には季節に合わせた飾りつけや行事の際の写真を掲示するなど本人が居心地良く過ごせるようにしている。また、利用者にとって不快や混乱を招くような気になる臭いや光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の形態を多様な形にして各々に過ごしやすい環境づくりを心掛けている。気の合う仲間と過ごせるよう配慮する。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、自宅で使用していた家具、手作りの品を持ち込まれ、居心地の良い工夫をしている。自宅にいた時の趣味など居室に掲示したりする事で最大限以前の生活を継続できるようにしている。	居室には、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、手作りの作品や家族の写真などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような空間になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の馴染みの物を持ち込んで頂いたり、居間スペースを利用し意向に添った対応を行っている。利用者の状態の把握と、安全確保に努めている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	少しずつだが権利擁護について勉強する機会が増えてきているが職員全体に浸透しきっていない。	職員全員が同等の知識を得てそれらを活用できるようになる。	研修会等には各職員が積極的に参加してもらい各々に知識をつけてもらうと共に、学んできた事を法人内で発表することでより自分の物にしていく。	1年
2	2	大きな行事等では少しずつではあるが地域の方の参加、理解を頂いているので一部の人々だけではなく、たくさんの人たちに理解をして頂く必要がある。	近隣住民の多くの方に施設の事を充分に知って頂き、気軽に訪問や行事参加して頂けるようになる。	通勤時や散歩の際挨拶、声掛けを徹底し職員1人1人に意識付けを行い、友好的な関係作りを行っていく。	1年
3	13	定期的な伝達報告会、学習会に参加し勉強の機会があるが個々の認知症についての理解に差がある。	職員1人1人が同等の知識、能力を身につけて一つのチームとして同じ考えを持てる。	法人外での学習会等にも積極的に参加して頂きそこで学んだことをユニット内で各職員に伝達してもらうことで全職員で周知していく。	1年
4	21	集団に入る事が難しい利用者様をに対し上手くアプローチする事が出来ず孤立している事がある。	利用者様1人1人がストレスに感じない程度にさり気なく皆と過ごす事が出来るようになる。	1人1人の心情を十分に理解しその場その場を見極めていく力を持ち場を提供していく。	1年
5	38	新たな取り組みも始まり中々利用者様と一緒にゆっくり楽しむ時間が取りづらくなっている。	少しの時間でも利用者様とゆっくりお話をし、向き合える時間を確保することで希望、要望を聞きだし支援していく。	業務の見直しを図り職員、利用者様に負担の掛からない方法を探るとともに、今まで以上に利用者様の表情、行動に目を配る事で望みを理解し支援していく。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300350		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホーム すずらん・らいらっく (らいらっく)		
所在地	北海道厚岸郡厚岸町門静1丁目69番地		
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人のため、医療との連携がとれており、毎日の医師、看護師の往診があり体制が確保されております。また、パワーリハビリを導入し、平成24年9月より運動場を設立し、GHでのリハビリも始まっております。デイケア専門職のアドバイスを頂きながら実践すると共に、利用者の持っている力を最大限に生かし、活動性のある生活を送って頂けるよう、取り組んでおります。利用者同士一緒に取り組む事で、張り合いや助け合い、生き生きとした表情が見られ意欲向上に繋がっております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0174300350-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成25年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングにて再確認し、統一したケアが行えるよう取り組んでいる。また共有スペースに理念を掲示し、いつでも確認できるようにしている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の文化祭、お祭り等の行事への参加をしている。また、グループホーム主催の夏祭りや避難訓練等の案内を出し、参加の呼びかけや、交流を図れるよう取り組んでいる。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホーム併用型認知症デイサービスを行っており、利用案内のチラシやパンフレットに気軽に相談等対応できることを呼びかけている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や要望を取り入れサービスの向上につなげるよう努めている。また、地域、保険者、家族の方々に参加して頂き意見をもらえるよう行事等の併用も含め取り組んでいる。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括会議等に参加し、相談しやすい関係が出来ており、行事には声をかけ参加して頂いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を認識できない利用者については、家族に現状を報告し話し合い、書面にて承諾を得居室での臥床時のみ、サイドレールを使用している。現況では玄関の施錠を行なっている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、又、ミーティングにて話し合い、各自虐待についての意識を高め、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見が必要なケースが、今までない為、必要な時に支援できる体制が整っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時の説明は時間をかけて丁寧に説明し、理解の確認をしながら行っている。契約内容の他に、考えられるリスクや必要経費についても理解してもらえるよう十分に説明している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時や、運営推進会議で意見や要望、苦情等を言えるような雰囲気作りを心がけている。出された意見や要望、苦情等は報告書をあげ、ミーティングで話し合いをしている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、スタッフが主導になりミーティングを行い、意見を出し合える機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に対する奨励や援助、研修会参加に対する援助を行っている。資格に対する手当、ケアマネ試験対策受講等、出張による研修受講。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外の研修には、出来るだけスタッフが参加出来るよう配慮し、ミーティングで報告する機会をもっている。また、事業所内の研修については、自己研摩に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の研修会に参加し、得た情報はミーティングで他職員に伝達し、サービスの質等、改善出来る所は改善するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談で生活状況を把握するよう努め、不安のないよう本人の要望を聞くようにし、入居の時点で利用者の望んでいる事を出来るだけ叶えられるよう取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から話を聞き、家族の思いと本人の思いの違いを把握するよう努めている。本人の心地よい環境を整えるよう、努力している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用予定者、家族に見学に来てもらい、十分に説明すると共に、本人・家族が必要としている事を、事業所として出来る限りの支援を行うよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験豊富な高齢者より、教えて頂くという基本姿勢で接するよう努め、尊敬の意を持っている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望やスタッフの思いを伝えることで、家族の思いを知ることができ、協力関係が築けている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の施設を有効利用したり、本人が昔から利用していた店を本人の希望にそって利用して頂いている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手伝い等一緒に行なう事で、互いに助け合う関係が出来ており、意欲の向上につながっている。また、利用者が孤立しないよう、スタッフが間に入り、他者との関わりを持つきっかけ作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にも行事の案内をし、気軽に足を運んで頂けるように働きかけている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中で、本人の声に耳を傾け把握するよう努めている。困難な場合はその人の立場で立ち考え、家族からの情報や希望を取り入れ検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人または家族や親類の方からも情報を頂き、本人が生活しやすいよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、その時の心身状態を観察している。本人の趣味や特技を把握するよう努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望や家族の思いを理解し取り入れ、月に一度全職員でモニタリング、カンファレンスを行っている。また、身体状況が変化した場合の見直しや、家族、本人の要望を取り入れ検討している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や、スタッフの意見を取り入れ情報共有し、評価を実施している。全職員が情報を共有出来るよう、必要な事は業務日誌に必ず記載している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共用型通所サービスを開始後、グループホームの多機能性を活かした支援が出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館バスの利用や、デイサービスの行事に参加・民謡の慰問等の協力を頂いている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師の法人内訪問診療を受けており、関係を密にしている。日曜・祭日については、連絡をとれる体制にあり、看護師は毎日往診に来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には毎日(日曜・祝日を含む)来てもらっている。また、看護師とスタッフは気軽に相談できる関係が出来ており、看護師と医師とも連携を密にとれる体制が確保されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、生活状況、既往歴等の情報を提供している。家族とは情報交換しながら対応している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を大切に、随時確認しながら医師、家族、職員による説明、話し合いを行っている。また、急変時には医療機関との連携を図り、状況の変化があるごとに、職員、医師が都度説明し、支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者のリスクについて確認し、ミーティングで話し合っている。また、緊急時対策マニュアルを用意している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を地域の方や利用者で行い、安全に暮らせるよう取り組んでいる。また、近隣の方々にも緊急時連絡網に登録をして頂き、協力を頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングで話し合い、利用者のプライドやプライバシーを損ねない対応をするよう心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定しやすい声かけをするよう心がけている。意思表示の困難な方には、声をかけ表情をみながら対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおよそ決まっているが、本人の意思や体調を確認しながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望により訪問理美容のサービス利用や、外出により馴染みの床屋や美容室を利用している。訪問サービスを、その時の思いや体調により受けられない方については、家族も理解され協力を得られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備はもちろんのこと、盛り付けや片付けの作業は一緒に行っている。利用者同士一緒に行なうことで、互いに刺激になり意欲向上につながっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を毎日必ずチェックし、毎月体重測定を行っている。また、栄養バランスは管理栄養士の指導により作成した献立を使用している。摂取出来ない利用者に関しては栄養補助ドリンクを飲んで頂くなどしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けし、口腔ケア・義歯洗浄を行っている。利用者によっては夜間義歯をお預かりしたり、声掛けにて義歯洗浄して頂いている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄のパターンを全スタッフが理解している。排泄チェック表を使用し適切な時間に誘導する等の対応をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や手伝いにより、適度に身体を動かして頂くよう働きかけ、毎日ブルーベリーや乳製品の提供をしている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を確認し、出来る限り希望する時間に入浴出来るようにしている。入浴に対し拒否が強い時は無理せず、翌日違う職員から声を掛けるなどしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、安眠できるよう働きかけている。眠れない場合は、ホットミルクの提供や、スタッフと居間で話をする等の対応をしている。又、季節に合わせた寝具を使用している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報のファイルを作成し、スタッフが内容を把握できるようにしている。誤薬を防ぐ為準備とチェックの2重確認、服薬については、飲み込むまでの確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり興味のあるものを把握し、意欲を引き出し楽しみながら行える事を提供するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望やスタッフの働きかけにより、ドライブや外出等行っている。また、墓参りや自宅に行きたいなど希望された場合、家族に本人の希望を伝え話し合い、外出できるよう努めている。その他の要望があった場合は、職員間で検討し対応するようにしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者に対しては、所持してもらっている。また、スタッフと一緒に買い物に出掛け欲しい物を選び購入して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の希望があれば、気兼ねなく出来るよう努めている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるよう、利用者と一緒に装飾する物を作り食堂や居間に飾っている。また、食堂から見える場所に木や花を植え、季節を感じて頂けるよう環境に努めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂、窓際に、歌を聴ける場所や景色を眺めゆっくりと過ごせるスペースを作っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れたものを持参されるよう説明しているが、新品の物も多く見られる。その中で家族の写真を飾ったり、家具の他は使い慣れた日用品を使ったりと、本人が心地よく過ごせるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態を把握し、安全確保と自立への配慮に努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームらいらく

作成日: 平成 25 年 2 月 14 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	57	利用者に関わるよう意識をしているが、関わる時間をあまり持てていない。	利用者に関わる時間を増やす。	業務の見直しを検討し、利用者一人ひとりと関われる様にし、利用者が職員へ話しかけやすい環境を整えていく。一人ひとりの興味のあるものを把握し、意欲を引き出せるようにする。楽しみながら行える事を提供できるように取り組む。	1年間
2	37	自己決定できるよう配慮しているが、職員が決定している事も多く見られる。	利用者が自己決定をできる様に働きかけていく。	本人の意志を各職員が意識し、声掛けを行い尊重できるよう取り組んでいく。衣類の選択など、時間をかけ、利用者本人が決めるようにしていく。	1年間
3	48	利用者と一緒にこなう事が、特定の人に限定されている。	利用者の出来る事を見つけていく。	出来ない決めつけず、出来る為にはどの様にしたら良いのかを考え働きかけていく。普段行なっている利用者は他の役割や楽しみを見つかるよう取り組んでいく。	1年間
4	34	利用者の急変や事故発生時の対応に不安がある。	緊急時の対応が出来るようにする。	緊急時対策マニュアルを各自、把握する。応急手当や初期対応を関係機関の協力ももらい研修を実施する。不安に感じている職員は、自らも学ぶ機会を設けていく。	1年間
5	47	薬の目的や副作用、用法、用量を正しく理解出来ていない部分がある。	薬を正しく理解する。	利用者が何の為に、どの様な薬を服薬しているか各自、お薬情報など再度確認していく。副作用についても理解し、症状の変化等に気付けるように取り組む。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。